

深大寺・佐須地区の変遷 ～ホテルが飛びかう里山から現在へ～

永く調布市環境保全審議会委員を務める斎藤亀三氏のお話を聞きました。

この地区は、国分寺崖線からの豊かな湧水に恵まれた里山として、かつては野川沿いに水田が広がり、明治・大正期には養蚕も盛んでした。深大寺の「だるま市」は、だるまに似た繭の豊作祈願に由来しています。しかし、昭和30年代の家畜糞尿による野川の水質汚染や、その後の河川改修、農薬の使用などにより、たくさんいたホタル、トンボなどの昆虫や植物、動物は急激に姿を消していきました。

開発と生物相の崩壊



昭和40年代、水害対策としての野川の改修工事や佐須用水の三面護岸化、さらに急速な宅地化や中央高速道路の建設といった都市開発が、動植物の生息域を分断しました。これに加え、自然保護への関心が高まる一方で「手を付けないことが最善」という誤解が広まり、本来必要な雑木林の更新（伐採や剪定）が行われなくなったことで、カニ山などの植物相は衰退し、その結果、生物多様性が失われていきました。

関心もって守りたい貴重な環境

今、代々の継承が難しくなっている都市農業や里山保全の現状を考えると、この地域に残された貴重な環境を守っていくためには、まず私たち市民が、この地区の生き物や植物に深く関心を持つことが大事だと感じました。私たちが毎年行っている野川の生きもの調査もその一歩です。

D.K

ハンセン病の歴史から学ぶこと

『砂の器』、『愛する』、『あん』などの映画をご覧になったことはありませんか？ いずれもハンセン病に関わる場面が出てきますが、理不尽な偏見差別に抗いようのない人々の悲しみが伝わります。

去る1月、ハンセン病国家賠償訴訟原告団のお一人75*さんのお話を聞く機会を得ました。75さんは、母と兄がハンセン病に罹患し強制隔離されました。父との貧しい暮らし、親族からの心無い言葉や世間からの偏見差別の中で、どういう子ども時代を過ごされたのか、療養所の様子、当時の社会状況等について話してくださいました。

1931年「^{らい}癩予防法」が施行され、国は強制隔離政策のもと全国に療養所を設置し、在宅の患者も強制的に入所させました。そして1948年には「優生保護法」、1953年の新たな「らい予防法」などによって、根拠のない偏見と差別が続いてきました。ようやく「らい予防法」が廃止されたのは1996年のことでしたが、今なお、療養所暮らしをせざるを得ない高齢の方たちもいます。

根拠のない間違った情報が流布する怖さ、同調圧力…こうしたことに時に私たちは挫けそうになりますが、コロナ禍を振り返って、改めてハンセン病の教訓を忘れてはならないと強く思いました。

後日、調布でも75さんに講演していただく予定です。

S.Y

*原告団の方は、本名は公表せずに番号で活動されています。

活動報告



市議会

- 1/15 調布市議会議員研修「所管事務調査と議会の政策立案能力の向上について」
- 2/6 東京都市議会議長会議員研修会@府中
- 2/7 調布市議会 議会報告会@八雲台小
- 2/27～3/26 第1回定例会

文教委員会では、所管事務調査として市内に活動場所がないスポーツについてヒアリングを進めています。ぜひ情報をお寄せください。

議員活動

- 1/17・3/1 ゼロカーボンシティWS
- 1/17・2/21 おしゃべりカフェ（議会報告・地域課題）
- 1/24 市川房枝政治参画フォーラム（2026年度予算）

- 1/29 自治体議員政策情報センター・虹とみどり主催研究会（ウォーターPPP）
- 2/1 ちょうふ環境市民会議環境活動交流会（グリーンインフラ・雨庭）
- 2/2 澤井財政研究会
- 2/8 調布ネット総会
- 2/9 都市計画審議会・国民健康保険運営協議会傍聴
- 2/13 財務省ヒアリング
- 2/14 調布基地跡地福祉施設内覧会
- 2/18 障害者（児）団体連合会合同会議参加
- 2/20 教育委員会定例会傍聴
- 2/26 高齢者福祉推進協議会傍聴
- 3/28 野川生き物調査・留保地シール投票



2/13 留保地について財務省にヒアリング



3/28 調布基地跡地留保地計画シール投票チラシをお渡ししながら駅頭でお話しさせていたです。シール投票では色々なご意見を伺うことができました。今後も活動を続けていきます。